

平成24年度採択プログラム 中間評価調書

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	東京大学	整理番号	O04
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) ごのかみ まこと 氏名・職名 五神 真 (東京大学総長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) つばい たかし 氏名・職名 坪井 俊 (東京大学大学院数理科学研究科長)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) こうの としたけ 氏名・職名 河野 俊文 (東京大学大学院数理科学研究科教授)		
4. 類型	○ <オンリーワン型>		
5.	プログラム名称	数物フロンティア・リーディング大学院	
	英語名称	Leading Graduate Course for Frontiers of Mathematical Sciences and Physics	
	副題		
6. 授与する博士学位分野・名称	「数物フロンティアプログラム修了」を記した博士(数理科学)または博士(理学)の学位		
7. 主要分科	(①) (②) (③) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	数学・物理学・地球惑星科学		
8. 主要細目	(① 代数学) (② 幾何学) (③ 基礎解析学) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理、 気象・海洋物理・陸水学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	大学院数理科学研究科数理科学専攻、大学院理学系研究科物理学専攻、大学院理学系研究科地球惑星科学専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			

(機関名:東京大学 類型:オンリーワン型 プログラム名称:数物フロンティア・リーディング大学院)

14. プログラム担当者の構成 計 40 名			
外国人の人数	45 人	[12.5%]	女性の人数
			5 人 [12.5%]
プログラム実施大学に属する者の割合 [95.0 %]			
プログラム実施大学に属する者	38 人	プログラム実施大学以外に属する者	2 人
そのうち、他大学等を経験したことのある者	33 人	そのうち、大学等以外に属する者	0 人

15. プログラム担当者

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
(プログラム責任者) 坪井 俊	ツボイ タカシ		大学院数理学研究科・研究科長	位相幾何学・理学博士	事業の統括
(プログラムコーディネーター) 河野 俊文	コウノ トシタケ		大学院数理学研究科・数理学専攻・教授	位相幾何学、数理解、理学博士	プログラム全体および学内外連携事業の統括推進
新井 仁之	アライ ヒトシ		大学院数理学研究科・数理学専攻・教授	数理解、視覚科学、ウェーブレット解析・理学博士	数物フロンティア教育推進
石井 志保子	イシイ シホコ		大学院数理学研究科・数理学専攻・教授	代数幾何学・理学博士	数物フロンティア教育推進
稲葉 寿	イナバ ヒサシ		大学院数理学研究科・数理学専攻・教授	数理解人口学、数理解生物学・Ph.D.	数物フロンティア教育推進
Willox, Ralph	ウィロックス ラルフ		大学院数理学研究科・数理学専攻・教授	数理解、可積分系・理学博士	数物フロンティア教育推進、国際連携委員会
大栗 博司	オオグリ ヒロシ		カリフォルニア工科大学・教授、カブリ数物連携宇宙研究機構・主任研究員	素粒子論、数理解、理学博士	数物フロンティア教育推進
緒方 芳子	オガタ ヨシコ		大学院数理学研究科・数理学専攻・准教授	統計力学、作用素環・博士(理学)	数物フロンティア教育推進
Kapranov, Mikhail	カブラノフ ミハイル		カブリ数物連携宇宙研究機構・教授	代数幾何学・Ph.D.	数物フロンティア教育推進
河東 泰之	カワヒガシ ヤスユキ		大学院数理学研究科・数理学専攻・教授	作用素環論・Ph.D. 理学博士	数物フロンティア教育推進、国際連携委員会
川又 雄二郎	カワマタ ユウジロウ		大学院数理学研究科・数理学専攻・教授	代数幾何学・理学博士	数物フロンティア教育推進
儀我 美一	ギガ ヨシカズ		大学院数理学研究科・数理学専攻・教授	非線形解析・理学博士	数物フロンティア教育推進、社会連携委員会
楠岡 成雄	クスオカ シゲオ		大学院数理学研究科・数理学専攻・元教授	確率論、数理解ファイナンス・理学博士	数物フロンティア教育推進
小林 俊行	コバヤシ トシユキ		大学院数理学研究科・数理学専攻・教授	不連続群論、リー群論・理学博士	数物フロンティア教育推進、企画委員会
斎藤 恭司	サイトウ キョウジ		カブリ数物連携宇宙研究機構・主任研究員・特任教授	複素幾何学・理学博士	数物フロンティア教育推進
斎藤 毅	サイトウ タケン		大学院数理学研究科・数理学専攻・教授	数論幾何・理学博士	数物フロンティア教育推進、アドミッション・学務委員会
佐藤 薫	サトウ カオル		大学院理学系研究科・地球惑星科学専攻・教授	大気物理学・理学博士	数物フロンティア教育推進
志甫 淳	シホ アツシ		大学院数理学研究科・数理学専攻・教授	数論幾何学・博士(数理学)	数物フロンティア教育推進
立川 裕二	タチカワ ユウジ		大学院理学系研究科・物理学専攻・准教授	場の量子論及び弦理論・博士(理学)	数物フロンティア教育推進
辻 雄	ツジ タケシ		大学院数理学研究科・数理学専攻・教授	整数論幾何学・博士(数理学)	数物フロンティア教育推進
時弘 哲治	トキヒロ テツジ		大学院数理学研究科・数理学専攻・教授	可積分系・工学博士	数物フロンティア教育推進
戸田 幸伸	トダ ユキノブ		カブリ数物連携宇宙研究機構・特任准教授	代数幾何学・博士(数理学)	数物フロンティア教育推進
永原 裕子	ナガハラ ヒロコ		大学院理学系研究科・地球惑星科学専攻・教授	惑星科学・理学博士	数物フロンティア教育推進、アドミッション・学務委員会
中村 周	ナカムラ シュウ		大学院数理学研究科・数理学専攻・教授	数理解、偏微分方程式・理学博士	数物フロンティア教育推進
中村 尚	ナカムラ ヒサシ		大学院理学系研究科・地球惑星科学専攻、先端科学技術研究センター・教授	気候力学、大気海洋相互作用、大気大循環論・Ph.D.	数物フロンティア教育推進

(機関名:東京大学 類型:オンリーワン型 プログラム名称:数物フロンティア・リーディング大学院)

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
平地 健吾	ヒラチ ケンゴ		大学院数理科学研究科・数理科学専攻・教授	複素幾何学・博士(理学)	数物フロンティア教育推進
舟木 直久	フナキ タダヒサ		大学院数理科学研究科・数理科学専攻・教授	確率論・理学博士	数物フロンティア教育推進
古田 幹雄	フルタ ミキオ		大学院数理科学研究科・数理科学専攻・教授	幾何学・理学博士	数物フロンティア教育推進
Hellerman, Simeon	ヘラーマン シメオン		カブリ数物連携宇宙研究機構・准教授	ストリング理論・Ph.D	数物フロンティア教育推進
細野 忍	ホソノ シノブ		学習院大学・教授	数理物理学・理学博士	数物フロンティア教育推進
堀 健太郎	ホリ ケンタロウ		カブリ数物連携宇宙研究機構・教授	場の理論、超弦理論・博士(理学)	数物フロンティア教育推進
Bondal, Alexey	ボンダル アレクセイ		ロシア科学アカデミーステクロフ研究所・上級研究員、カブリ数物連携宇宙研究機構・主任研究員	代数幾何学・Ph.D.	数物フロンティア教育推進
俣野 博	マタノ ヒロシ		大学院数理科学研究科・数理科学専攻・教授	非線形偏微分方程式・理学博士	数物フロンティア教育推進
Milanov, Todor	ミラノフ トドール		カブリ数物連携宇宙研究機構・准教授	可積分系・Ph.D.	数物フロンティア教育推進
宮下 精二	ミヤシタ セイジ		大学院理学系研究科・物理学専攻・教授	統計力学、物性基礎論、磁性・理学博士	数物フロンティア教育推進、アドミッション・学務委員会
村尾 美緒	ムラオ ミオ		大学院理学系研究科・物理学専攻・教授	量子情報理論・博士(理学)	数物フロンティア教育推進
村山 斉	ムラヤマ ヒトシ		カブリ数物連携宇宙研究機構長	素粒子論、初期宇宙論、数理物理学・理学博士	数物フロンティア教育推進
山本 昌宏	ヤマモト マサヒロ		大学院数理科学研究科・数理科学専攻・教授	応用解析・理学博士	数物フロンティア教育推進、社会連携委員会
吉田 直紀	ヨシダ ナオキ		大学院理学系研究科・物理学専攻・教授	宇宙物理学・Ph.D.	数物フロンティア教育推進
吉田 朋広	ヨシダ ナカヒロ		大学院数理科学研究科・数理科学専攻・教授	確率統計学・工学博士	数物フロンティア教育推進

(機関名:東京大学 類型:オンリーワン型 プログラム名称:数物フロンティア・リーディング大学院)

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数

本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 *(今後の募集予定: 有・無)	
プログラム募集定員数(実数)	64人	29人	28人	7人	
① 応募学生数	117人	66人	64人	22人	
	うち留学生数	11人	2人	3人	
	うち自大学出身者数	82人(2人)	44人(0人)	41人(0人)	10人(1人)
	うち他大学出身者数	35人(9人)	22人(2人)	23人(3人)	12人(2人)
	うち社会人学生数	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
うち女性数	4人(0人)	6人(0人)	2人(0人)	1人(1人)	
② 合格者数	78人	31人	34人	14人	
	うち留学生数	10人	1人	3人	3人
	うち自大学出身者数	63人(1人)	22人(0人)	23人(0人)	8人(1人)
	うち他大学出身者数	15人(9人)	9人(1人)	11人(3人)	6人(2人)
	うち社会人学生数	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
うち女性数	1人(0人)	2人(0人)	1人(0人)	1人(1人)	
③ ②のうち受講学生数	78人	31人	34人	14人	
	うち留学生数	10人	1人	3人	3人
	うち自大学出身者数	63人(1人)	22人(0人)	23人(0人)	8人(1人)
	うち他大学出身者数	15人(9人)	9人(1人)	11人(3人)	6人(2人)
	うち社会人学生数	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
うち女性数	1人(0人)	2人(0人)	1人(0人)	1人(1人)	
プログラム合格倍率(①応募学生数/②合格者数)(小数点第二位を四捨五入)	1.50倍	2.13倍	1.88倍	1.57倍	
充足率(合格者数/募集定員)	122.00%	107.00%	121.00%	200.00%	

※うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()には留学生数を内数で記入してください。

※平成27年度*(今後の募集予定:有・無)については、平成27年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

①区分制及び一貫制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度						平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度	平成29年度
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計		
平成24年度選抜	27	32	19	0	0	78	0	27	31	19	0	77	0	0	24	31	18	73	0	0	0	24	33	57		
うち留学生数	3	3	4	0	0	10	0	3	3	4	0	10	0	0	3	3	4	10	0	0	0	3	3	6		
うち自大学出身者数	20	27	16	0	0	63	0	20	26	16	0	62	0	0	19	26	15	60	0	0	0	19	27	46		
うち他大学出身者数	7	5	3	0	0	15	0	7	5	3	0	15	0	0	5	5	3	13	0	0	0	5	6	11		
うち社会人学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち女性数	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1		
平成25年度選抜							25	0	6	0	0	31	0	25	0	6	0	31	0	0	20	0	6	26		
うち留学生数							1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1		
うち自大学出身者数							19	0	3	0	0	22	0	19	0	3	0	22	0	0	15	0	3	18		
うち他大学出身者数							6	0	3	0	0	9	0	6	0	3	0	9	0	0	5	0	3	8		
うち社会人学生数							0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち女性数							1	0	1	0	0	2	0	1	0	1	0	2	0	0	1	0	1	2		
平成26年度選抜													26	0	8	0	0	34	0	26	0	8	0	34		
うち留学生数													3	0	0	0	0	3	0	3	0	0	0	3		
うち自大学出身者数													20	0	3	0	0	23	0	20	0	3	0	23		
うち他大学出身者数													6	0	5	0	0	11	0	6	0	5	0	11		
うち社会人学生数													0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち女性数													1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1		
平成27年度選抜																			0	0	14	0	0	14		
うち留学生数																			0	0	3	0	0	3		
うち自大学出身者数																			0	0	8	0	0	8		
うち他大学出身者数																			0	0	6	0	0	6		
うち社会人学生数																			0	0	0	0	0	0		
うち女性数																			0	0	1	0	0	1		
計	27	32	19	0	0	78	25	27	37	19	0	108	26	25	32	37	18	138	0	26	34	32	39	131		
修了者数	0						0						13						39						32	34
就職者数	0						0						13													
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数	0						0						0						0							

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.Eによるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数

各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度					平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度	平成29年度
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計		
平成24年度選抜					0					0					0					0		
うち留学生数					0					0					0					0		
うち自大学出身者数					0					0					0					0		
うち他大学出身者数					0					0					0					0		
うち社会人学生数					0					0					0					0		
うち女性数					0					0					0					0		
平成25年度選抜										0					0					0		
うち留学生数										0					0					0		
うち自大学出身者数										0					0					0		
うち他大学出身者数										0					0					0		
うち社会人学生数										0					0					0		
うち女性数										0					0					0		
平成26年度選抜															0					0		
うち留学生数															0					0		
うち自大学出身者数															0					0		
うち他大学出身者数															0					0		
うち社会人学生数															0					0		
うち女性数															0					0		
平成27年度選抜																				0		
うち留学生数																				0		
うち自大学出身者数																				0		
うち他大学出身者数																				0		
うち社会人学生数																				0		
うち女性数																				0		
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
修了者数																						
就職者数																						
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																						

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】 本プログラムは、数理科学研究科と理学系研究科物理学専攻、地球惑星科学専攻において、カブリ数物連携宇宙研究機構と連携して、先端数学の博士課程でのトレーニングと研究活動を確固たるアイデンティティとし、既存の分野にとらわれず、また基礎応用の区別なく広い視野を持ち、数学力を発揮できる博士人材を育成する。その結果、理論物理学などに代表される諸科学の進展に本質的な寄与ができるような、高度な数学を創成、展開する先端数理科学の博士人材と、情報数理(符号・暗号理論)、数理生物学、金融数理(ファイナンス)、保険統計数理、大気、海洋あるいは気象・気候を扱う環境数理、逆問題などを扱う産業数理の専門家として、広く産業界や行政でリーダーシップを発揮する、社会数理科学の博士人材を国内外に送り出す。本プログラムは、数学と他分野の連携を深める数物先端科学と、数学と他分野との連携を広める社会数理先端科学の二つのコースを同時に提供し、我が国を代表する優秀な数学人材に、革新的かつ、国際標準においてトップレベルの大学院教育を提供する、新規性をもつ独自のプログラムである。

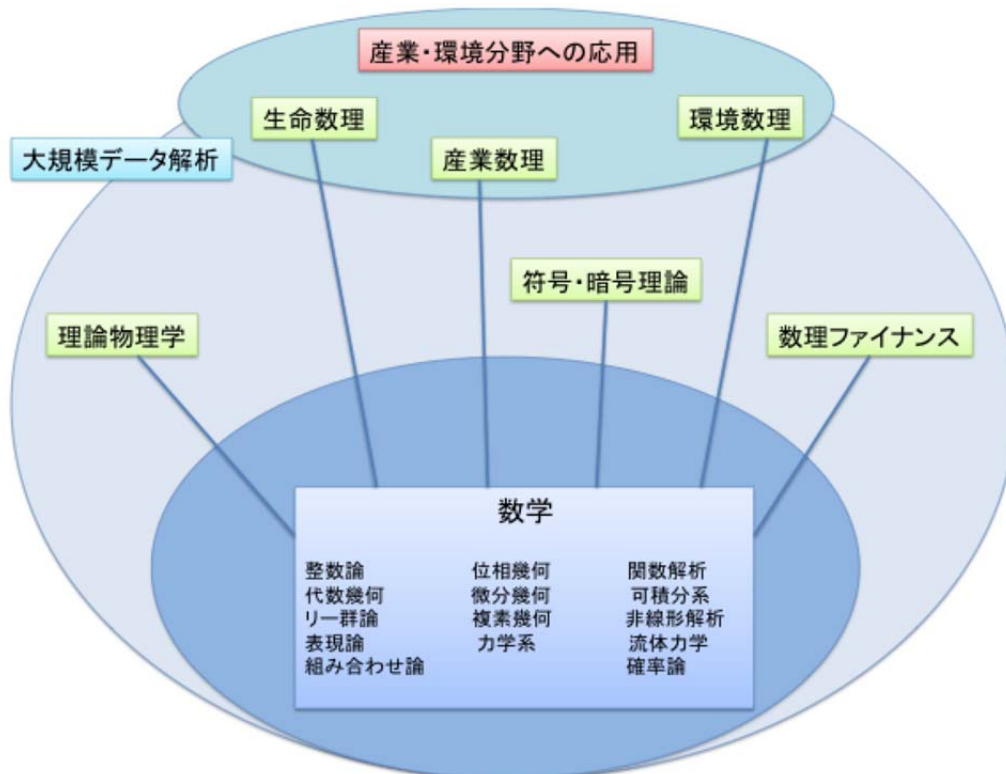
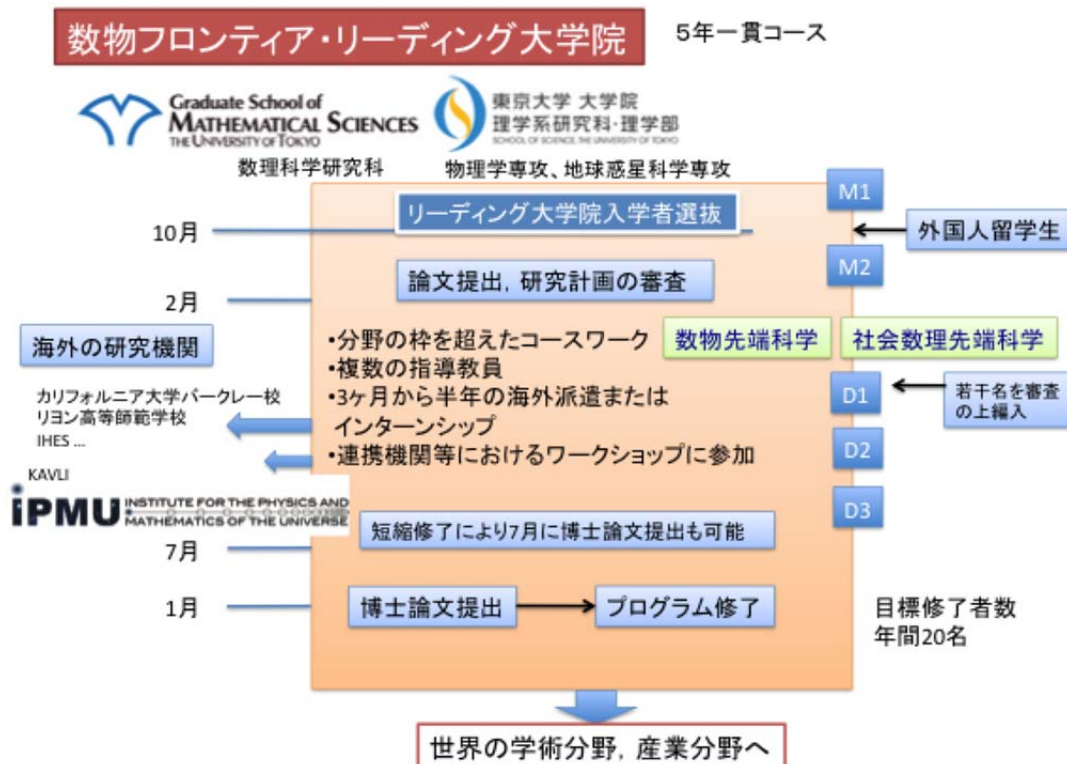
【背景】 数学は諸科学を記述する基本的な言語であり、科学立国の基盤として、不可欠で、近年その重要性はさらに増している。ガリレオが「宇宙は数学の言葉で書かれている」と述べているように、数学、物理学、天文学は伝統的に互いに密接に結びついて発展してきた。しかしながら、20世紀半ばにかけて数学は独自の抽象化、深化を遂げ、抽象性ゆえにさらなる汎用性をもつようになった。この数年、数学と理論物理に代表される諸科学との関連は、新たな段階を迎えている。数理科学研究科と理学系研究科およびカブリ数物連携宇宙研究機構において、数学と理論物理学のシナジーにより、新たな研究領域が醸成されている。プログラムでは、数理科学研究科と理学系研究科の博士前期課程および博士後期課程の教育における協力関係を、カブリ数物連携宇宙研究機構をブリッジとすることによって、より密接にし、数学と理論物理学の分野の枠を超えた研究の発展を大学院生の教育に、一層反映させ、数学と他分野の連携についての深さと広さを兼ね備えた人材を養成する。社会のさまざまな問題の解決のために、このような人材が求められている。

【特色】 プログラムで養成する大学院生は、複数の教員の指導を受け、横断的な視点を身につけることができるようにする。プログラムの大学院生にはコース「数物先端科学」と「社会数理先端科学」を必修科目として課す。このコースワークは、数理科学研究科、理学系研究科、カブリ数物連携宇宙研究機構の教員が担当し、オムニバス講義、集中講義などの形式で開講される。プログラムの大学院生は、修了段階で、従来、専門の枠にとらわれがちであった大学院生に比べて、はるかにグローバルな視野を得ることができる。さらに、高度な現代の数学を修得するとともに、これを、産業数理、環境数理などの分野で使いこなし、社会貢献ができる人材を養成する。プログラムの大学院生には、博士課程後期において3ヶ月ないしは半年間の海外の研究機関への派遣または、企業への長期インターンシップを選択させる。本プログラムでは、留学生の受入とプログラムの大学院生の海外派遣を視野に入れて、博士前期課程1年次の10月に開始とする。博士前期課程2年次の1月に修士論文の相当する研究論文を提出し、研究計画とともに審査する。本プログラムは博士後期課程3年次2月までの5年一貫プログラムとする。また、短縮修了の制度を用いて、博士後期課程3年次の7月に修了することも推奨する。

【優位性】 日本の数学、理論物理学の研究者において本学の出身者の占める割合は高く、プログラムによって、数理科学研究科および理学系研究科において、俯瞰的な視野をもち、国際的な研究経験を積んだ、質の高い博士課程修了者を養成することは、科学立国のためにきわめて重要である。本プログラムは数理科学研究科数理科学専攻、理学系研究科物理学専攻、理学系研究科地球惑星専攻が協力して遂行する。さらに、カブリ数物連携宇宙研究機構の研究者が協力する。数理科学研究科および理学系研究科の優秀な学生に、複数の一線の研究者の指導によって、俯瞰的な視点を与え、国際的な研究経験を積ませることにより、学界と産業界の要請に応える。このような大学院教育は、数理科学研究科、理学系研究科、カブリ数物連携宇宙研究機構の一線の研究者の協力と、これまでの長期にわたって培われた国際交流のネットワーク、および近年力を入れている社会連携ネットワークによって可能になるものであり、本プログラムを通して、大学院教育の新たな潮流を創成したい。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)



「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	東京大学	整理番号	O04
プログラム名称	数物フロンティア・リーディング大学院		
プログラム責任者	坪井 俊	プログラム コーディネーター	河野 俊丈

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

[総括評価]

一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、必修のコースワーク、正副指導教員や海外研究者による指導、海外派遣など、学生の意識を高めグローバルな俯瞰力を涵養し切磋琢磨させるプログラムの効果が現れていることは評価できる。しかし、従来の理工学分野での数学応用を超える発展を担う世界的なリーダーを養成するプログラムとしての独自性は十分に明確化されておらず、今後の努力が必要である。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性について、学生の自主的な活動のための環境の整備、海外派遣による国際感覚の涵養、産業界との連携による課題発見の訓練などの取組については評価できる。しかし一方で、産官民へのキャリアパスの見通しも限定的であることから、目指すべきリーダー像の明確化やキャリア支援室の実効性向上については、今後の努力が望まれる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、もとより強力な指導体制を有しており、本プログラムの特任教員・教育支援員を加えることで充実した体制になっていると評価できる。しかしキャリア支援室の効果はまだ明確に現れていないため、産官への新たなネットワークの構築および強化を進めることも重要である。またプログラム担当者全員の能力が本プログラムの趣旨に沿って十分に活用され、注力されているかについても疑念が残る。

優秀な学生の獲得については、適度な競争により優秀な学生が選抜され、他大学出身者や留学生を含め多数確保できており、適切で有効な経済的支援もなされていると高く評価できる。今後はキャリアパスの拡大と並行して、社会人学生獲得等も考慮した工夫が望まれる。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについて、高度なレベルが設定されたQEと学位審査基準の明確化、学術的内容に加えて数学と諸科学連携についての理解と国際的研究者資質を審査する方針としたことなどは評価できる。しかし本プログラムが新たに育成する「産官民で活躍するグローバルリーダー」としての資質を保証するという観点では、更なる工夫や判定基準の強化が望まれる。

事業の定着・発展について、全学的なマネジメント体制が整備されたことと、外部評価によってプログラムを改善する仕組みを整備したことは評価できる。本プログラムの学内への波及のための方法と、財源確保を含めた具体的な将来構想の策定、及び外部評価の結果の有効活用に今後一層の努力が求められる。

総括的には、現状においては従前からの高度グローバル研究者の育成と、研究指導体制の維持と強化に留まることが危惧されるため、本プログラムの趣旨に沿ったリーダー育成のための一層の努力が必要である。